

# 津波避難施設の考え方

## 津波避難施設の考え方

### × 津波浸水想定

・ 平成26年3月

三重県発表の津波浸水予測図

## 津波避難施設の考え方

- × 逃げ遅れ対策
- × 避難困難地の抽出

避難可能距離を850mとし、抽出

歩行速度×(津波到達時間－避難開始時間)

(1) 歩行速度・・・時速1.66km＝分速27.67m

(乳幼児、高齢者等歩行速度が遅い同行者がいた場合の歩行速度)

(2) 津波到達予想時間・・・37分

平成24年3月に三重県が発表した50cmの津波が明和町に到達する予測時間。

(3) 避難開始時間・・・5分

$$\therefore \text{分速}27.67\text{m} \times (37\text{分} - 5\text{分}) = 885.44\text{m} \approx 850\text{m}$$

内閣府のガイドライン、国土交通省の報告書等より

## 津波避難施設の考え方

### × 場所

- ・ 避難困難地区をカバーする位置を選定する。
- ・ 原則、幹線道路沿いに設置する。
- ・ 原則、地区の陸側（海岸から離れる位置）に設置する。
- ・ 法規制を考慮する。
- ・ 土地所有者の承諾を得ていないこと。また、地域住民の意見等を聴取した上で、実際の整備位置は変動することが予想される。

## 津波避難施設の考え方

### × 避難フロアの高さ①

- ・ 想定される浸水深が3mの場合は4階建て以上のRCまたはSRC構造の施設を候補とする。

「津波避難ビル等に係るガイドライン」

平成17年6月内閣府政策統括官（防災担当）より

- ・ 避難スペースの配置を検討する際には想定浸水深さに相当する階に2を加えた階に設ければ安全側であると考えられる。

「津波に対し構造耐力上安全な建築物の設計法等に係る追加的知見（技術的助言）」（平成23年11月17日国住指第2570号）より

## 津波避難施設の考え方

### × 避難フロアの高さ②

○標準的な建築物の1階層高さを3.5m

1階層高さ：床から次の階の床までの高さ

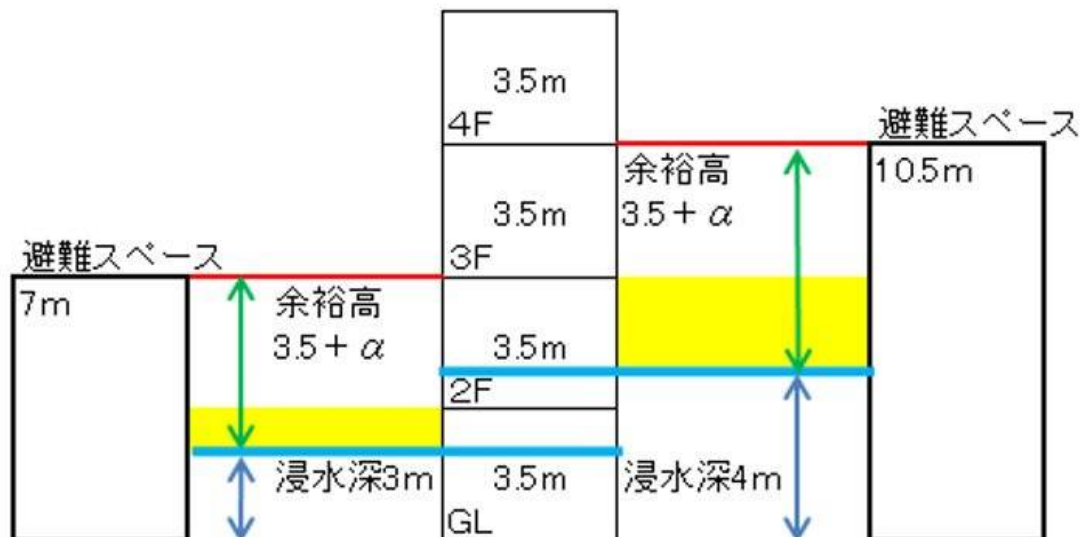
○想定浸水深が3.5m未満の場合は

3階フロア相当の7.0m

○想定浸水深が3.5m以上7.0m未満の場合は

4階フロア相当の10.5m

## 津波避難施設の考え方



## 津波避難施設の考え方

### × 津波避難タワー

避難タワーの収容人数 1人/1m<sup>2</sup>

「津波避難ビル等に係るガイドライン」

平成17年6月内閣府政策統括官（防災担当）より

既存の施設では、2人/1m<sup>2</sup>の広さのものが多くみられる。